

【参考資料】 データでみる上伊那

※特に注釈のないものは上伊那地域（8市町村）の数値

地勢

- ・総面積：1348.40 km²（県全体の約1割）
→うち、森林面積：1070.99 km²（総面積の約8割）、耕地面積：125.87 km²（総面積の約1割）

・気候

観測地点	降水量（mm・年合計）	気温（℃・年平均）	日照時間（時・年合計）
辰野	1435.8	11.1	2044.0
伊那	1454.0	11.7	2094.2
飯島	2014.1	11.2	2054.5
長野（参考）	965.1	12.3	1969.9
松本（参考）	1045.1	12.2	2134.7
飯田（参考）	1688.1	13.1	2074.5

※降水量は、北部は年間1,500mm以下と全国的にも雨の少ない地域であるが、南部に行くにつれ降水量は多くなる。（長野県全体でも南信は北信・中信に比べ降水量が多く、降雪量は少ない傾向にある）

※平均気温は県内他地域とほぼ同じで、東京や大阪に比べ低いが、同じ地域の中でも標高による差が大きい。

※日照時間は年2,000時間を超えており、全国的にも日照時間の多い地域である。（県北部は冬期に雲が多く、雪が降りやすいため日照時間は短くなる）

人口

- ・人口減少と少子高齢化が進行している

	2005	2020	2045（推計値）
人口	192,000人	179,800人	133,000人
高齢化率	23.6%	31.6%	42.6%

※2005年が人口増のピーク

- ・移住先としての人気が高く、移住者は増加傾向にある

	2016	2018	2020
移住者数	227人	285人	351人

※管内市町村の移住ランキング受賞歴：

伊那市…SMOUT 移住アワード2020（（株）カヤック）：全国第2位

辰野町（2021住みたい田舎ベストランキング（町の部）（株）宝島社）：総合部門 全国第3位

宮田村（2021住みたい田舎ベストランキング（村の部）（株）宝島社）：総合部門 全国第1位）など

- ・箕輪町、南箕輪村は、それぞれ長野県で最も人口の多い町、村である

生活基盤

- ・風水害が頻発している

平成18年7月梅雨前線、令和2年7月豪雨、令和3年8月豪雨 など

- ・医師、看護師等の医療従事者数が少ない

	人口10万人当たり	長野県平均	長野県内10広域圏中
医師	160.1人	233.1人	9位
歯科医師	60.5人	77.1人	6位
薬剤師	157.4人	182.8人	8位
看護師・准看護師	1158.4人	1317.0人	9位

- ・公共交通機関の利用者の減少が進んでいる

	2000	2010	2019
JR 飯田線 長野県内駅1日平均利用者数	18,886人	13,898人	12,872人

	2016	2020
地方バス路線維持のための市町村負担額	1.8億円	3.2億円

- ・産学官が連携したキャリア教育の取組が進められている（郷土愛プロジェクト 等）

産業

- ・製造業が盛んな地域であり、第二次産業の従事者が多い

従事者比率	第一次産業	第二次産業	第三次産業
上伊那	8.6%	37.8%	51.7%
長野県全体の平均	9.1%	28.5%	61.1%

※H27 国勢調査

- ・製造業の輸出比率（輸出处荷額／製造品出荷額）が高い

	輸出比率
上伊那	18.9%
長野県全体の平均	12.6%

- ・製造業や建設業において、人材の確保が課題となっている

	有効求人倍率（2022.6月）
専門・技術的職業（常用）	2.49
建設・採掘の職業（常用）	5.30
全職種平均（常用）	1.48

- ・全国トップクラスの品質と単位収量を誇る米を中心に、畜産、野菜、花き、きのこ、果樹など多様な品目が生産されている。

農業産出額割合	米穀類	畜産	野菜	花き	きのこ	果樹	その他
上伊那	32%	17%	17%	12%	11%	9%	2%
長野県	16%	10%	28%	5%	17%	22%	2%

※上伊那地域では農業産出額のうち米の占める割合が高い

- ・林業生産額は増加傾向にある

	2010	2015	2020
林業生産額（百万円）	753	1,252	1,155

※2020年は新型コロナウイルスの影響による木材価格の下落やマツタケの不作により伸び悩んだ

- ・農林業において、担い手の減少や高齢化が進んでいる

	2010	2015	2020
基幹的農業従事者数（個人経営体）	5,482人	5,310人	4,002人

※農林業経営体のうち、経営主が45歳未満のもの割合：4%（2020）

観光・交流

- ・観光客、観光消費額が少ない

	上伊那	長野県内10広域圏中	長野県全体
観光地利用者数	2,451千人	9位	51,476千人
観光消費額	54億円	10位	1,841億円
外国人延べ宿泊者数	23,039人	8位	1,195,460人

※外国人延べ宿泊者数は2019年、そのほかは2020年の数値

- ・リニア中央新幹線とのアクセス基盤の整備が進められている

国道153号「伊南バイパス」全線開通（2018）、「伊駒アルプスロード」新規事業化（2020）、「伊那バイパス」福島ー野底区間供用開始（2022）

- ・三遠南信自動車道を活用した産業発展・交流促進への期待が大きい

第2次三遠南信地域連携ビジョンの策定（2019-2030）

- ・外国籍住民が多い

	上伊那	長野県内10広域圏中	長野県平均
人口1,000人当たり外国人数	26.1人	1位	18.1人

※国籍別では、県全体では中国（23%）が最も多いが、上伊那地域ではブラジル（33.2%）が最も多い。

環境

・ごみ排出量が少ない

	上伊那	長野県	全国
1人1日当たりのごみ排出量	610g	807g	901g

・産業部門からのCO2排出量の割合が大きい

CO2排出量に占める割合	産業部門	家庭部門	業務部門	運輸部門
上伊那	29%	21%	16%	33%
長野県平均	22%	23%	20%	33%

・木質バイオマス（ペレット・薪）の生産量が県内トップである

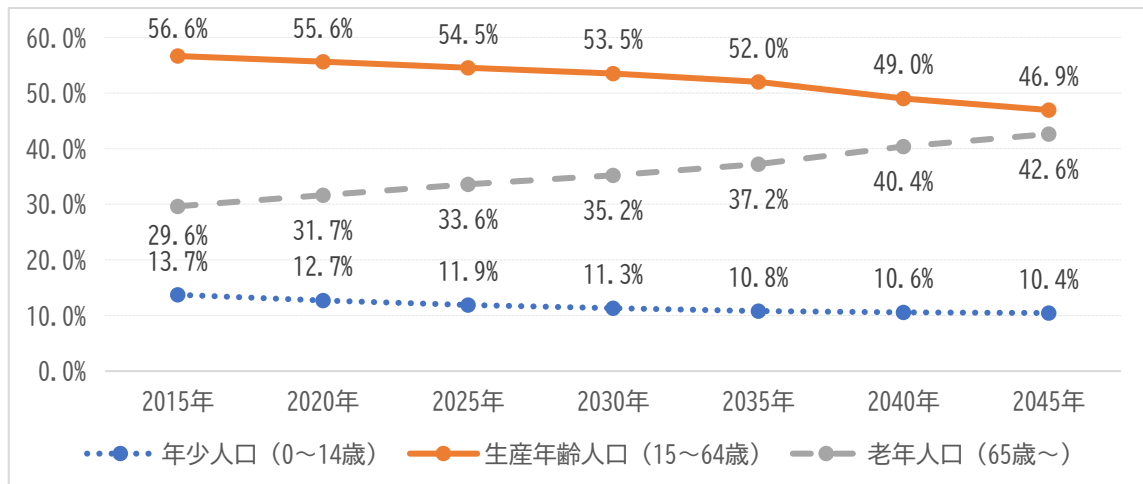
	上伊那	長野県内10広域圏中
ペレット生産量	3,527t	1位
薪生産量	5,304 層積m ³	1位

・森林づくり県民税を活用した森林整備が積極的に進められている

森林づくり県民税活用額：255,536千円（2020） ※県全体の2割を上伊那で活用

【その他参考グラフ】

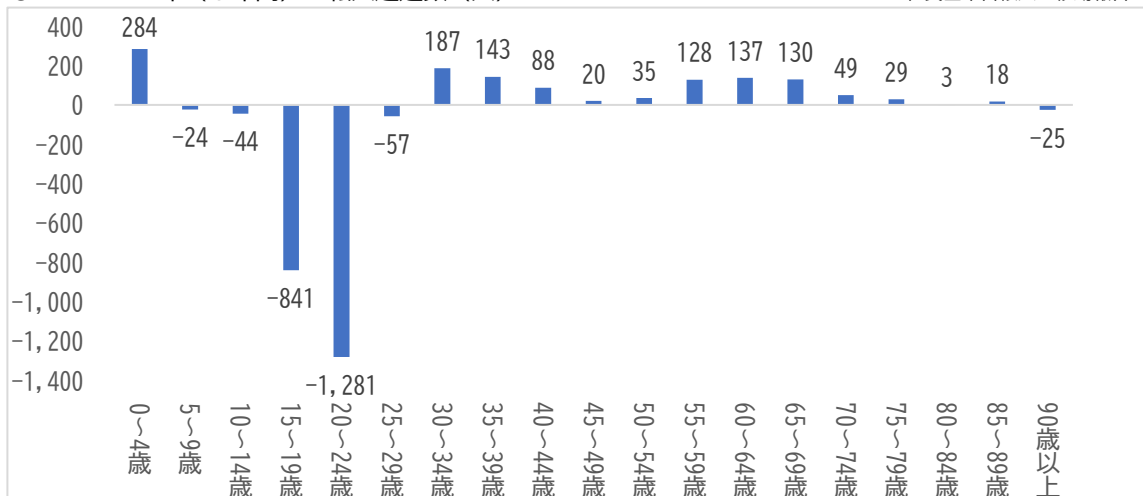
○年齢3区分別人口割合の推移 ※2020年までは国勢調査(R2)、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計(H30)



※2040年には生産年齢人口（労働力の中核となる人口）が総人口の50%を下回ることが推計されている。

○2017~2021年（5年間）の転入超過数（人）

※住民基本台帳人口移動報告



※乳幼児と子育て世代（30~40代）及び50代~60代は転入が転出を上回っているものの、10~20代の若年層の転出超過が著しい。